



音楽家 有田正広 写真:渡部孝弘

COVER PHOTO

クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会
最終公演

10月13日(金) 19:00開演 コンサートホール

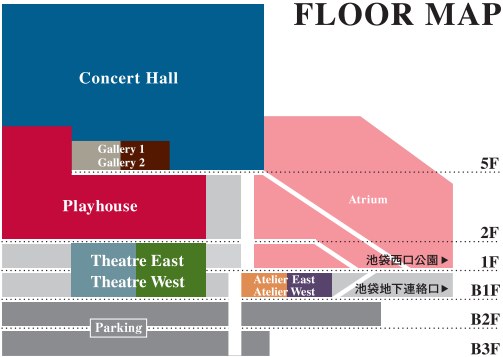
指揮:有田正広

フォルテピアノ:仲道郁代

管弦楽:クラシカル・プレイヤーズ東京(オリジナル楽器使用)

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre

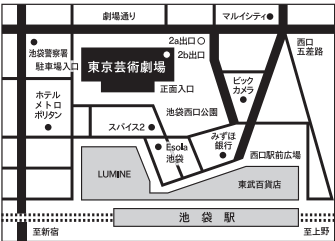


FLOOR MAP

1F 東京芸術劇場ボックスオフィス
(チケット・総合案内カウンター)
| 予約 | **0570-010-296**
| お問合せ | (休館日を除く10:00~19:00)

5F 託児サービス
東京芸術劇場で公演ご鑑賞のお客様の
お子様をお預かりします。(要予約)
長谷川サポート株式会社 わらべうたBS課
| お問合せ | **0120-415-306**
(平日9:00~17:00)

B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場
| 利用料金 | 300円/30分
| 営業時間 | 7:00~24:00
| お問合せ | **03-6914-0019**



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
| 開館時間 | 9:00~22:00 (休館日を除く)
| お問合せ | **03-5391-2111**
JR. 東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より
徒歩2分、池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

芸劇 BUZZ vol.20 2017年7・8・9月号

《編集・発行》東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 《編集・デザイン》COM Works 《印刷》(株)技芸堂

平成29年6月25日発行

芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.20 2017

7.8.9.



特集・PICKUP

指揮 ジョン・アクセルロッド
N響JAZZ at 芸劇

指揮 有田正広
**クラシカル・プレイヤーズ東京
演奏会 最終公演**

東京芸術劇場シアターオペラvol.11
全国共同制作プロジェクト
プッチーニ／歌劇『トスカ』

読響サマーフェスティバル
**ルイージ特別演奏会／
ブラスウィーク／
エル・システマフェスティバル**

原作 松尾スズキ 脚本・演出 ノゾエ征爾
「気づかいルーシー」

マルタン・ズィメルマン
「HALLO」

演出 シルヴィウ・ブルカレーテ
出演 佐々木蔵之介 ほか
「リチャード三世」

演出 イヴォ・ヴァン・ホーヴェ
「オセロー」

朗読「東京」第5回

東京芸術劇場 芸術監督

野田秀樹

対談

演出家・作家

ジョン・ケアード

大人計画 日本総合悲劇協会vol.6「業音」／
勅使川原三郎「月に吠える」／
芸劇dance／芸劇eyes 贅沢貧乏

CALENDAR

7月・8月・9月

にゅ〜盆踊り／東京フラフェスタ／
大道芸 ほか

N響JAZZ at 芸劇

指揮：ジョン・アクセルロッド

真夏の夜、交響楽団は ジャズ・バンドに変身する

今年で3回目となる「N響JAZZ at 芸劇」。

今年はさらに世界を広げて、ジャズとラテン音楽、

ミュージカルなどが、様々なスタイルで出会う作品を紹介する。



ジョン・アクセルロッド

©Hikaru

「夏だ! JAZZだ! N響だ!」

豊島区出身のミュージシャン山下達郎が1980年代に使っていたキャッチフレーズは「夏だ! 海だ! 達郎だ!」だったが、それにならって、東京芸術劇場で真夏に開催されるNHK交響楽団によるコンサートは「夏だ! JAZZだ! N響だ!」と呼んでも構わないだろう。今年で3年目となるが、前2回は人気・注目度も高く、売り切れ必至の公演だ。N響がシンフォニック・ジャズを演奏するという意外性だけでなく、取り上げられた作品もガーシュウィン、バーンスタイン、エリントンなどの名曲ばかり。20世紀に入ってからクラシックとジャズの親密な関係を、気鋭の指揮のジョン・アクセルロッドとN響が演奏で証明してくれた。

ラテン音楽のテイストも

さて、3回目の2017年はさらに探索する領域が広がる。ロシアからラテン音楽の世界まで、そしてバーンスタインの傑作ミュージカルの中でもジャズとラテン音楽の融合を探る。

まず、ロシアの作曲家ショスタコーヴィチ。重厚な交響曲の作曲家として知られるショスタコーヴィチだが、一時期は映画音楽をたくさん手がけ、軽音楽やジャズにも詳しくった。ユーマンズの名作《二人でお茶を》をオーケストラ用に編曲した《タヒチ・トロット》ではグロッケンシュピールなどを使い、可憐な音楽に仕立て直している。《ジャズ組曲第1番》はワルツ、ポルカ、フォックストロット(ブルース)の3曲からなり、数種のサクソ、パンジョー、様々な打楽器に加え、ピアノ、ヴァイオリン、コントラバスが各1という20世紀初期のジャズ・バンド的な編成となっている。

続いて、ジャズ・ピアノの巨匠のひとりチック・コリアの作品《ラ・フィエスタ(La Fiesta)》。イタリア系とスペイン系の血をひくチックは、1972年に彼の最初のグループである「リターン・トゥ・フォーエヴァー」のアルバムの中に、ラテン・テイスト濃厚なこの曲を収録。同時期にジャズ・ヴィブラフォンの鬼才ゲイリー・パートンとチックはジャズ・フェスなどで共演し、アルバムも制作していた。2008年、ふたりはシドニー交響楽団と共演して《ラ・フィエスタ》をピアノ、ヴィブラフォン、オーケストラによるバージョンでライブ録音した。今回は日本を代表するジャズ・ピアニストで、ラテン音楽に強い塩谷哲が、そのライブ録音バージョンをピアノとオーケストラで再現する。ヴィブラフォンのパートもピアノで演奏する編曲版は、この名曲の新しい魅力を教えてくれるに違いない。

ミュージカルと出会うジャズ

アメリカを代表する指揮者レナード・バーンスタイン。作曲家としても活躍した彼の作品は「N響JAZZ」の第1回でも数多く紹介された。今回はバーンスタインの代表的なミュージカル2作品からの2曲を演奏する。まず1944年の『オン・ザ・タウン』から《3つのダンス・エピソード》。ニューヨークを舞台にしたこのミュージカルの中の重要なダンス・ナンバーを集めた管弦楽曲で、当時のスウィング・ジャズの響きを感じられる。そして名作『ウエストサイド物語』より《シンフォニック・ダンス》。これはミュージカルの成功後に、ミュージカルの主要な音楽を管弦楽用に編曲した作品。〈マンボ〉〈チャチャ〉といったラテン音楽も登場するが、それはミュージカルの中にプエルトリコ系のグループ「シャークス」が登場するから。クラシック音楽の語法とジャズ、ラテン音楽を巧みに取り入れたバーンスタインの天才的な作曲術がたっぷり味わえる作品だ。

さあ、今年も真夏の夜をN響と一緒に過ごそう。

文：片桐卓也(音楽ライター)

塩谷哲(ピアノ)

クラシックや現代音楽、コンテンポラリー・ジャズ、ラテン音楽、そしてポップスの世界と、あらゆる分野に顔を出しては彷徨っている私にとって、今回のコンサートのお話ほど嬉しく光栄なことはありません。異文化を知り、謙虚に学ぶことで新たな文化を生むことができると信じてやってきた私ですが、ショスタコーヴィチとチック・コリアという2人の天才が生み出した音楽をどう表現できるか、ちょっと武者震い……です。

N響は言わずと知れた最高峰のオーケストラ。ジョン氏とも初顔合わせなので一体どんな音楽の世界を作っているのか楽しみでなりません。このドキドキ、ワクワクを皆さんと一緒に味わってみませんか? 是非お待ちしております。



©Kiyotaka Saito

8月19日(土) 17:00開演 コンサートホール

詳細はP12へ

指揮：ジョン・アクセルロッド ピアノ：塩谷哲* 管弦楽：NHK交響楽団

ショスタコーヴィチ／二人でお茶を(タヒチ・トロット) Op.16、ジャズ組曲 第1番*
チック・コリア／ラ・フィエスタ*

バーンスタイン／『オン・ザ・タウン』より「3つのダンス・エピソード」
『ウエストサイド物語』より「シンフォニック・ダンス」

料金：SS席7,000円 S席6,200円 A席5,400円 B席4,600円
C席3,800円 D席3,000円

クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会 最終公演

指揮：有田正広

最終公演に “火花”散る演奏を!

作曲当時の新鮮な喜びを、

当時のスタイルの楽器と演奏法とで伝えてきた

クラシカル・プレイヤーズ東京。

その最後の演奏会がいよいよ、今秋10月に迫る。

最後はモーツァルトで締めくくりたい

オーケストラの掉尾を飾るプログラムには、モーツァルトの最後の作品群を並べた。指揮者・有田正広はこう話す。「最終公演ということで、そこに作曲家の最晩年の作品をあてました。第39番と第41番は、モーツァルトの最後の交響曲3部作のうちの2つ。第41番はクラシカル・プレイヤーズ東京(以下、CPT)の前身、東京パッサ・モーツァルトオーケストラの旗揚げ公演で披露した曲です。スタートがこの作品だったので、終わりのこの交響曲にしたい、と思いました。前回までベートーヴェンの交響曲シリーズを続けていました。今回、最終公演でベートーヴェンに代えてモーツァルトを取り上げたのは、僕自身モーツァルトがすごく好きで、今でもインスパイアされ続けているから。最終公演はモーツァルトで締めくくりたかった」

前半の《ピアノ協奏曲第27番》は、有田から独奏の仲道郁代に提案した。「最終公演の決まる前は仲道さんと、第23番まで共演していたので、次は24・25・26番かなと思っていました。第27番は念頭になかったんです。仲道さんと次の相談をするタイミングで最終公演が決まった。そこで僕のほうから、モーツァルト最後のピアノ協奏曲を提案しました」

なによりもまず音楽家であることを目指して

そもそも、今回をもってオーケストラの歴史に幕を閉じるのは、いったいなぜなのか。「あるとき、これ以上、僕が指揮者をする必要はないのではないかな、と思ったんです」有田は続ける。「僕は自分がフルーティストであるとか、指揮者であるとか意識したことはあまりなかった。音楽家でありたいとはつねに思っていますが、かつての独裁的な指揮者の時代は終わり、求められる像はずいぶん変わりました。それでもなお、みなを強力にまとめるカリスマ性が必要な場面があります。僕はそういう音楽家ではない、とふと思ったんです。提案型ですから。CPTではたくさんの貴重な体験をさせてもらえた。もうそろそろ指揮はお休みしてもいいかな、という気持ちになりました」

音楽家の感性が舞台上で“火花”を散らす

仲道との共演も回数を重ねたが、CPTの舞台にともに立つのはこれが最後だ。共演のきっかけはこうだった。「あるテレビ番組で仲道さんが、ショパンを訪ねる旅をしていました。その姿を見て、彼女の意欲と好奇心とにひかれ



有田正広

写真：渡部孝弘

ました。番組の最後、ショパンゆかりのピアノを仲道さんが弾く。みるみるうちに顔つきが変わり、エモーショナルな演奏になった。この人にショパンの使っていた楽器を、もっと知ってもらいたいなと思ったんです」そこから、当時のブレイエル・ピアノでショパンを、18世紀のシュタインを写したピアノでモーツァルトを弾く演奏会が、次々と実現していった。10月の公演はその集大成となる。

「準備して何度も向き合ってきた音楽だけど、本番のその瞬間に散る火花こそ、大切なもの。それしかないです」舞台上上がる音楽家の気持ちを、有田はこう表現する。「譜面を開いてそのとき感じたもの、それが昨日のリハーサル、一昨日の練習と違っていい。よく言うでしょ、演奏は水物だって。これまでの経験やさまざまな研究はもう、血肉になっています。音楽家としての素っ裸な感性で感激できるかがすべてです」

取材・文：澤谷夏樹(音楽評論家)

仲道郁代(フォルテピアノ)

有田正広さんとCPTとの公演の数々は、私に作曲家とその時代に向き合うことの大切さを教えてくれました。モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン……それぞれの時代に実際に鳴っていたであろう音が身体に染み込み、その音、その楽器を思いながら楽譜を読む。もたらされたのは、新しい発見でした。作曲家たちの生きた言葉、音楽を見つける道筋が示される。決して古い遺跡を訪ねる作業ではありません。「古きを温(たず)ねて新しきを知る」とは正にこのことでした。

東京芸術劇場では、日本はおろか、世界でも滅多に聴けない当時の音世界が再現されました。なんと貴重な一期一会の体験だったのでしょうか。今度が最後となるのこと……残念でなりません。最後の公演を深く刻むべく、心を引き締めています。



©Kiyotaka Saito

10月13日(金) 19:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

指揮：有田正広 フォルテピアノ：仲道郁代

管弦楽：クラシカル・プレイヤーズ東京

モーツァルト／交響曲第39番 変ホ長調 K.543

ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595

交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

料金：S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

東京芸術劇場シアターオペラvol.11 全国共同制作プロジェクト プッチーニ／歌劇『トスカ』 《新演出》全3幕 日本語字幕付 イタリア語上演 指揮：広上淳一 演出：河瀬直美

自然と夜明けの 讃歌としての『トスカ』

国際的に高い評価を受ける

映画監督・河瀬直美が初めて手掛けるオペラは、
プッチーニの最高傑作『トスカ』。
1800年のローマでの一日の悲劇が、
古代を想起させる架空の時代を舞台にした
愛と信仰の物語として生まれ変わる。

時代や地域を超越した物語の力

劇場映画デビュー作『萌の朱雀』(97年)が、カンヌ国際映画祭で史上最年少の新人監督賞を受賞して以来、国内外で大きな注目を浴びてきた河瀬直美。静謐な映像美と自然体の演出で知られる河瀬が初めて舞台演出を手掛けるオペラは、プッチーニの名作の中でも円熟期の最高傑作と名高い『トスカ』だ。「これまでオペラ鑑賞はほとんどない」と謙遜しつつ「繰り返し演じられる『トスカ』の物語の力には、文楽に近いものがある」と語る河瀬には、既に舞台上で表すべきことが明晰に見えているようだった。

『トスカ』がまず、何百年も前の物語であるということに興味を抱きました。作品の世界観というよりは、時代を超えて何度も繰り返し上演されている表現であるということに興味を持ったのです。日本の文楽に相当するのではないかとも思いましたし、今とは少し違う感覚で人類が生きていた時代の話だと感じました。信仰ということに関して、人間がもっと身近な感覚を抱いていた時代で、心中にしても自殺にしても、当時はもっと生きることの延長にある感覚があったのではないかと。今の感覚では語れないけれど、今の人たちに見ていただきたいので、時代や場所をはっきりと特定しないことにしたんです。イタリアにしてみようとそれ以上のことが想像できない。その上で、『トスカ』の気配や空気感は壊さないようにしていこうと思っています」

信仰とは人類に普遍的なもの

歌姫トスカのキャラクターには「信心深く神の存在を疑わない女性」という抜きがたい特徴がある。これに関しても、ごく自然な演出のアイデアが浮かんだと河瀬は語る。

「人類の根源にあるのは信仰です。もっと原始的な時代には、人間は自然の脅威を目のあたりにして生きてきましたから、そういうところで信仰も自然発生的に生まれてきたし、信仰心は世界中どの国にもあったと思うんです。原始的な信仰は自然信仰であり、その時代にはシャーマンと呼ばれる人たちがいて、自然の声を聴けたのかも知れないし、それを“神の声”と呼んでいたのかも知れない。私のルーツが奄美大島なので、自然信仰のルーツが残っているのをよく見てきました。画家のカヴァラドッシはシャーマンという設定で



題字：河瀬直美 photographed by LESLIE KEE

す。彼は信仰を通してもう一つの世界があることを知っているがゆえに、みずからの運命を受け入れられる存在なんです」

トスカを手籠めにしようとする、いわゆる“悪代官”スカルピアも、河瀬にとっては100%の悪人ではないという。

「その時代に生きたその立場にある人間として、言うべきことを言い、やるべきことをやった人。そういう人間は欲望がものすごく強いから、何でも自分のものにしようとするんだけど、最後は女の手によって殺されてしまう。最大の悲劇ですよ。その悲劇に対してトスカが行う信仰の形は、すごく美しい。スカルピアを殺した後の祈りは、もしかしたら、罪は憎んでいるけど人は憎んでいない、ということなのではないかと思っています。トスカは大いなるものに抱かれる感覚をもっていた女性であり、最後はその大いなるものに抱かれて、また違う世界に旅立っていくという終わりにしたいです。自らの死という悲劇ではなく、太陽の中に別世界があり、信仰によって別の世界で生き直そうとする…そういうエンディングを考えています」

舞台美術は、NYを拠点に活躍する気鋭の建築家・重松象平氏が担当。既に多くのプランが進行しつつある。

「スカイプやラインなどでずっと打ち合わせをしています。重松さんは映画監督志望だったらしいのですが、私のほうはずっと建築家になりたかった。お互いバスケットボール部だったという共通点もあり、似た感性があるんです。重松さんが設計する三方向でそれぞれ異なった表情を見せるオブジェを置き、そこに私が作った映像を立体的な背景として使って舞台美術を完成させていく予定です」

『トスカ』は希望の物語であり、どんな暗い夜にも必ず夜明けがある…という天体現象を、希望のあるエンディングにつなげていくという。イタリアオペラというジャンルを超えた、大きな愛の物語を目撃することになりそうだ。

取材・文：小田島久恵（音楽ライター）

10月27日(金) 18:30開演・29日(日) 14:00開演 詳細はHPへ
コンサートホール

指揮：広上淳一 演出：河瀬直美
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団
合唱：東邦音楽大学合唱団
児童合唱：TOKYO FM 少年合唱団

出演：トス香(トスカ)：ルイザ・アルブレヒトヴァ／
カバラ導師・万里生(カヴァラドッシ)：アレクサンドル・バディア／
須賀ルビオ(スカルピア)：三戸大久／
アンジェロツ太(アンジェロツティ)：森雅史／
堂森(堂守)：三浦克次／スボレッタ(スボレッタ)：与儀巧／
シャル郎(シャルローネ)：高橋洋介／看守：原田勇雅／牧童：鳥木雅生

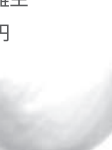
料金：S席10,000円 A席8,000円 B席6,000円 C席4,000円
D席3,000円 E席1,500円 SS席12,000円



広上淳一 ©Greg Sailor



ルイザ・アルブレヒトヴァ



アレクサンドル・バディア

読響サマーフェスティバル2017 ルイージ特別演奏会

8月24日(木) 19:00開演 コンサートホール

詳細はP12へ



ファビオ・ルイージ Barbara Luisi ©BALU Photography

世界的名匠が得意のプログラムで読響と初共演

いま世界でもっとも多忙な指揮者はこの人かもしれない。チューリヒ歌劇場の音楽総監督、メトロポリタン・オペラの首席指揮者他の要職を務めつつ、各地の一流歌劇場やオーケストラに客演するファビオ・ルイージ。2018年からはフィレンツェ歌劇場の音楽監督に就任する。

そんな引く手あまたの名匠が、この8月、読売日本交響楽団と初共演を果たす。プログラムはR.シュトラウスの交響詩《ドン・ファン》、ハイドンの交響曲第82番《熊》、R.シュトラウスの交響詩《英雄の生涯》の3曲。シュトラウスでは華麗なオーケストレーション、ハイドンでは形式美とユーモアが聴きどころ。ともにルイージ得意の作品が並んだ。一見知的な印象のマエストロだが、楽譜に命を吹き込むことにかけては当代一流の名匠であり、その音楽は熱い。記憶に残る演奏会になるのでは。

文：飯尾洋一（音楽ジャーナリスト）

指揮：ファビオ・ルイージ 管弦楽：読売日本交響楽団
R.シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」 ハイドン／交響曲第82番「熊」 R.シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」
料金：S席6,000円 A席5,000円

東京芸術劇場 Presents ブラスウィーク2017

9月3日(日)・23日(土・祝)・25日(月)・30日(土)・11月1日(水) コンサートホール

詳細はP13、P14へ

恒例のブラスウィーク、今年も開催! 国内外のトップレベルの吹奏楽を堪能しよう

◆ 9月23日(土・祝) 14:00開演 東京吹奏楽団 第64回定期演奏会

指揮：小林恵子 演奏：東京吹奏楽団 V.パーシケッティ／吹奏楽のための交響曲「交響曲第6番」ほか

◆ 9月25日(月) 19:00開演 英国女王陛下の近衛軍楽隊

指揮：サイモン・ホッ少佐 ソプラノ：ファン・ユンジョン

演奏：英国女王陛下の近衛軍楽隊 コールドストリーム・ガーズ・バンド／スコットランド近衛連隊バグパイプ軍楽隊(特別共演)
エルガー／行進曲「威風堂々」ほか

◆ 9月30日(土) 14:00開演 東京佼成ウインドオーケストラ 第135回定期演奏会

指揮：大井剛史 演奏：東京佼成ウインドオーケストラ K.フサ／この地球を神と崇めるほか

◆ 11月1日(水) 19:00開演 ブラック・ダイク・バンド

指揮：ニコラス・チャイルズ 演奏：ブラック・ダイク・バンド P.グレイラム／トゥ・ボールドリー・ゴーほか

詳細はHPへ

◆ 4公演セット券[各公演1,000円引き／限定50セット]
18,400円 ※東京芸術劇場ボックスオフィス 窓口&電話のみ販売

9月3日(日) 12:45開式
バンドクリニック『中・高生のための楽しい吹奏楽』
プロの吹奏楽団より各パートに講師陣を招き、バンドクリニックを開催。合奏では指揮に小林恵子氏を迎え、芸劇のコンサートホールで演奏します。
※見学は付添者のみ可
バンドクリニック参加お申込み方法・詳細はHPへ

エル・システマフェスティバル2017

10月20日(金)～22日(日) コンサートホールほか

詳細はHPへ



エディクソン・ルイス

東京芸術劇場に、2年ぶりのエル・システマ旋風到来!

東京芸術劇場では2年ぶりのエル・システマフェスティバル、今回の目玉は3日目のガラ・コンサートだ。井上道義、コロン・エリカなどエル・システマと縁の深い出演者のほか、特別ゲストに、エル・システマの母国ベネズエラから、視覚・聴覚・運動障害を持つメンバーによるア・カペラアンサンブル、ララ・ソモスが来日し、熱いパフォーマンスを披露してくれる。また、発声の替わりに歌詞の内容を白い手袋をつけた“手歌”で表現するホワイトハンドコーラスも見どころのひとつ。今年度から東京でも取組を行っており、今回は都内から集った聴覚障害を持つこどもたちが参加する。そして、日本で最初のエル・システマプログラムが実践されている福島県相馬市からは、古橋富士雄音楽監督率いる相馬子どもコーラスが登場。日頃の練習の成果を披露する。

そのほか、エル・システマ出身のベルリン・フィルコントラバス奏者、エディクソン・ルイスによる室内楽コンサートやマスタークラスも開催。すべてのこどもを音楽を通して支援する、エル・システマの理念や熱意をたっぷりと感じられるフェスティバルになるだろう。

文：菊川穰（一般社団法人エル・システマジャパン代表理事）

10月20日(金) 18:00開始 シンフォニースペース(5階) エディクソン・ルイス室内楽マスタークラス

10月21日(土) 14:00開演 コンサートホール エディクソン・ルイスと仲間たち 室内楽公演

出演：辻彩奈(Vn)／田原綾子(Va)／堤剛(Vc)／エディクソン・ルイス(Cb)／伊藤恵(Pf) 料金：S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

10月22日(日) 14:00開演 コンサートホール エル・システマ ガラ・コンサート

出演：井上道義(Cond)／古橋富士雄(合唱指揮)／コロン・エリカ(S)／エディクソン・ルイス(Cb)／相馬子どもコーラス／東京ホワイトハンドコーラス／ララ・ソモス(ア・カペラアンサンブル)／エル・システマ・フェローオーケストラ

チケット発売：7月21日

料金：【全席指定】1,000円



ララ・ソモス ©シモンポリバル音楽財団

気づかいルーシー

原作:松尾スズキ

脚本・演出:ノゾエ征爾

パワーアップした キャストが再結集して、 再演決定!

松尾スズキ原作の絵本から生まれた
舞台『気づかいルーシー』が、
全キャスト続投で再演される。
脚本・演出で、今回は出演もするノゾエ征爾と、
出演者の小野寺修二に意気込みを聞いた。

—— 一昨年の初演が、幅広い年齢層それぞれに大好評で、すぐに再演が決まったと聞いています。

ノゾエ 再演にはいろんなケースがあると思います。例えば、同じクオリティのものを同じように(観客に)提供することが大事な作品ですか。でも『ルーシー』はそうではない。まず、キャストの皆さんがこの2年間に大活躍されてさらに力をつけたので、技術的な点がまったく変わっているはず。僕も含め全員が「あの時のままでいいよね」とは考えていないでしょうし、作品自体が進化を求めている気がします。

小野寺 その通りですね。初演は大変だったけどとても楽しかった。その時と比較しながら進むのか、新しいことにワクワクできるのかは、稽古場に立ってみないとわからない緊張感があります。でも年齢的には、演じるおじいちゃんに2年分、近づきました(笑)。若い役の再演だと、かつての自分を取り戻さないといけませんが、老いがフィットしていく役というのはなかなかない。おもしろい経験になりそうです。

—— 2年経った今だからこそ気づく反省点や良かった点があるのでは、と思います。

ノゾエ 基本的に、時間が経つほどマイナスのことばかり気になる人間なんです(笑)。『ルーシー』を振り返ると、自分の創作の姿勢そのものに関わる作品だったと感じます。僕は戯曲を書くのも演出を決めるのも遅いんですけど、その理由は、たぶん稽古場でいい偶然を探したいから。つまり、みんなで探検をしたい。『ルーシー』はそれができた現場でした。舞台美術も全く別の



案で仮組みまでしてもらったのに、どうしても違和感があって悩んでいたんですね。それをキャストの皆さんが「演出家、何やってんだよ」じゃなくて、一緒に彷徨ってくれて、巨大なジェンガのようなセットが生まれました。

—— その点は、フィジカルシアターのパフォーマーであり演出家でもある小野寺さんがキャストの一員であることが大きかったのでは?

ノゾエ はい。小野寺さんという尊敬するクリエイターの視点があるのに加えて、惜しみなくアイデアも出してくださって、本当に助けられました。

小野寺 偶然を待つ状態というのは僕にとってもすごく大事。むしろ、ノゾエさんとはそこが共有できるのがいいんです。

—— 小野寺さんはオープニングのシーンから登場する役で、この舞台の世界観を最初に提示する役割を担っていたと思いますが、プレッシャーは?

小野寺 全然なかったです。僕は役者としては経験が少ないですし、ノゾエさんを全面的に信頼しているので。アイデアは出しますし、自分がやることは一所懸命やりますけど、誰よりもまずノゾエさんに「いい!」と思ってもらいたい一心でした(笑)。

—— 今回、ノゾエさんも出演されるそうですね。その理由は?

ノゾエ 個人的な欲求だと思います、俳優としての(笑)。今回、ありがたいことにツアー先が結構あるんですが、全部一緒に回れることがわかって、だったら、観ているだけなのも寂しいなど(笑)。真面目な話、地方によっては会場がかなり大きいところもあり、そういう時に空間を埋める便利な要員ですね。何かの役を演じるかもしれないし、音楽担当の人たちと絡むかもしれない。稽古をしながら、何ができるかを考えたいと思っています。

小野寺 僕はノゾエさんと共演できるのはうれしいので、大歓迎ですよ。

ノゾエ だからやっぱり、再演と言えども、稽古も本番もバタバタになるんじゃないかと予想しています。でもそれは、新しい何かを発見するための重要なバタバタなので、キャストの皆さんにはまた付き合ってほしいし、お客さんはぜひ楽しみにしていてほしいです。

絵本そっくりのキャストや予想外の展開に、原作者の松尾スズキ氏も大満足したという本作。初演を観られなかった人はその楽しさを、観た人はパワーアップをぜひ期待してほしい。

取材・文:徳永京子
舞台写真:阿部章仁

7月21日(金)~30日(日)シアターイースト

詳細はP10へ

原作:松尾スズキ(千倉書房「気づかいルーシー」) 脚本・演出:ノゾエ征爾

出演:岸井ゆきの 栗原類/川上友里 山口航太 ノゾエ征爾/

山中崇 小野寺修二

演奏:田中馨 森ゆに

マルタン・ズィメルマン HALLO

たとえ世界が ひしゃげて 「ハロー」と 呼びかけるかぎり、 孤独ではないのだ。

世界中の舞台芸術の最先端で注目されているコンテンポラリー・サーカス。優れた美術と卓抜した身体性、アーティスティックな面とエンタテインメントの面が、高い次元で融合しており、家族全員で楽しめる作品も多い。楽しく、そして深い芸術的な満足感も味わえるのだ。

このジャンルで、世界でも高い評価を受けているのがスイスのズィメルマン エド・ペロである。これまで東京芸術劇場にも、彼らがモロッコのパワー・アクロバット・カンパニーに演出した『シュフ・ウシュフ』(2013)という作品や、4つの部屋がグルグルと回転する彼ら自身の作品『ハンスはハイリ』(2015)で来日している。じつに楽しく摩訶不思議な舞台を見せてくれたことを覚えている人もいだろう。

中心メンバーはカンパニー名にもあるディミトリ・ド・ペロとマルタン・ズィメルマンの2人。そのズィメルマンが、初のソロ作品を作っている、という情報はすぐに世界を駆け巡った。そして彼らの新境地として好評のうちに公演を重ねてきたこの作品が、ついに日本でも上演されるのである!

いったい、どんな舞台で、何が魅力なのだろう。

なんといってもズィメルマンの身体が、まずもって面白いのである。顔が大きく、身体の割に手足が細く、ひょろ長い。鳥人間のような特異なフォルムで、ただ歩くだけでも目が離せない。だが不器用そうに見える身体が、不意に俊敏に動く。あるいは立っているだけで、得も言われぬ哀愁を帯びる。何をしても観客の目を集めずにはいられない、天性のパフォーマーなのだ。



冒頭、ズィメルマンがマンガのように靴をキュッキュッと鳴らしながら歩いてくだけでも笑える。そして舞台上には、人ひとり入れるくらいの箱がある。実は彼らのカンパニー作品でも、箱や枠は重要なアイテムとして使われる。箱の中は狭いが、それゆえに安心できる場所でもある。あかりも灯り、くつろぐこともできる。ではもしも、もっと大きな箱を手にしたら? もっと安心し、もっと幸せになれるだろうか?

舞台上には箱、というか部屋がある。はるかにオシャレで居心地が良い。しかしよく見るとそれは、上下左右の壁があるだけの、「枠のようなもの」に過ぎない。ゆっくりとひしゃげていき、ぺしゃんこに畳まれてしまう。「大きく立派に見えた新しい居場所」はなくなり、暗い空間にたたずむズィメルマン。すると「枠」は再び動き出し、まるで呼吸するかのように、「部屋になってはひしゃげる」を繰り返す。世界は呼吸し、伸縮するのだ。

ズィメルマン エド・ペロのスタイルのひとつに、「安定しているはずの物が大きく揺らぐ」というものがある。先述した『ハンスはハイリ』の「回転する部屋」以外にも、『öper/öpis』では、広い舞台の床全体がグラグラと揺れたりするのだ。

本作でも、時に変容する箱/世界に押しつぶされそうになる。閉じていく箱/世界は、とてもひとりで支えきれものではない。しかし安定していると思っていた日常や生活が変容していくとき、人は必死にバランスを取って踏みとどまろうとする。世界と自分を繋ぎとめようとする試み、それ自体が、すでにダンスなのである。

そしてズィメルマンはタイトルでもある「ハロー」と呼びかける。これは相手がいれば「こんにちば」という意味だが、独りで叫ぶとき、それは「誰かいないか!?!」という呼びかけになる。

応える声はないかもしれない。しかし誰かを探し続ける限り、人は孤独ではない。いまはまだ見えないだけなのだ……

シンプルに見えて幾重にも変化する舞台芸術。孤独だが愛さずにはいられないキャラクター。見たことのない不思議な光景が次々に展開し、最後には少し淋しくも温かい余韻が残る。そしてあなたも「ハロー」と語りかけたくなるに違いない。目の前の誰かに対して、あるいはまだ見ぬ誰かに対して。

文:乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

7月29日(土)17:00開演・30日(日)14:00開演
プレイハウス

詳細はP10へ

コンセプト・演出・デザイン・振付・出演:マルタン・ズィメルマン

リチャード三世

演出:シルヴィウ・ブルカレーテ

オセロー

演出:イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

海外の名演出家たちが、 人の感情の怖さに迫る

ルーマニアのブルカレーテとオランダの
ヴァン・ホーヴェ^{*}。両者の演出スタイルは違うが、
「古典を現代の観客が共感できる舞台に
仕立てる名手」である点は共通だ

今秋、東京芸術劇場ではシェイクスピア劇の中でも人気の高い二作を、それぞれ世界で注目される巨匠の演出で見られる。欲望をたぎらす英国王リチャード三世と、嫉妬に悩むヴェニスの將軍オセロー。並はずれた能力に恵まれた主人公たちが破滅していく戯曲が、四百年以上にわたって各地で上演される理由は、双方とも決して特殊な人物の話ではないからだ。他人を支配したいという野心、自分だけを愛してほしいという切望……誰もが抱きそうな感情が巻き起こす嵐に、鑑賞者は胸底の思いを省みる。

男性俳優が王妃役も演じる『リチャード三世』

まず、10月にはシルヴィウ・ブルカレーテが、日本人俳優を初めて演出する『リチャード三世』（木下順二訳）。非道な策略で権力を奪う王を演じるのは佐々木蔵之介。座組はオールメール・キャストに近い。戯曲が書かれた当時の英国では、役者は男性のみだった。が、本作の配役は、ブルカレーテがワークショップで出会った俳優を選んだ結果だ。

国立ラトゥ・スタンカ劇場によるブルカレーテ演出ヴェデキント作『ルル』、ソポクレス作『オイディプス』などの来日舞台では、身体性の強い俳優が躍動

10月「リチャード三世」プレイハウス

作:ウィリアム・シェイクスピア 演出:上演台本:シルヴィウ・ブルカレーテ

翻訳:木下順二 演出補:谷賢一

出演:佐々木蔵之介／手塚とおる 今井朋彦 植本純米(植本潤改メ)／長谷川朝晴 山中崇／

山口馬木也 河内大和 土屋佑亮 浜田学 櫻井章喜／八十田勇一 阿南健治 有園芳記 壤晴彦／渡辺美佐子

朗読「東京」第5回

8月4日(金)～6日(日) シアターウエスト

詳細はHPへ

第4回公演より／左から 大鷹明良、陰山泰、内田亜希子
撮影:引地信彦

演出:長部聡介 朗読作品:◆江戸川乱歩 著「目羅博士の不思議な犯罪」 ◆内田百閒 著「東京日記」 ◆黒井千次 著「たまらん坂」

出演:手塚とおる／今井朋彦／高田聖子／志賀廣太郎 ほか

チケット発売:7月1日



し、エロスがあふれた。今回、ユーモアと残虐さを併せ持つ王に扮する佐々木はじめ、日本の俳優がどんな魅力を開花させるか、期待が高まる。

白人俳優がタイトルロールを担う『オセロー』来日公演

11月には米国のトニー賞や英国のオリヴィエ賞に輝き、映画スターを起用した舞台も成功させたイヴォ・ヴァン・ホーヴェが、トネル・グループ・アムステルダムを率いて来日。「オセロー」の登場人物は現代的な衣装で、スピーディーに奥深いドラマを演じる。

ムアア人の將軍オセローが、彼を憎む部下イアーゴにだまされ、妻デズデモナの不貞を疑う。この悲劇はオセローが黒人、つまり「白人の共同体で異質な存在」であることが一因とされやすい。だが、本作のオセロー役は白人俳優が担い、新鮮な効果をもたらす。高潔なオセローが嫉妬に苛まれ、かけがえない宝だった妻を殺す過程から、人間の強さと脆さが浮上。観客は理知ではコントロールできない、愛の深淵を垣間見だろう。

※ヴァン・ホーヴェはオランダの劇団と活動する拠点をアムステルダムに置くが、出身はベルギー。

文:桂真菜(舞踊・演劇評論家)

11月「オセロー」プレイハウス

作:ウィリアム・シェイクスピア 演出:イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

出演:トネル・グループ・アムステルダム

チケット発売:7月15日 詳細はHPへ

大人計画／日本総合悲劇協会vol.6「業音」

8月10日(木)～9月3日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



松尾スズキ、衝撃の問題作。15年ぶりの再演

「大人計画」主宰の松尾スズキが作・演出を務める日本総合悲劇協会シリーズ。その第三作として2002年に上演された『業音』が15年の時を経て再演。演歌歌手として再起を狙う元アイドルを主人公に、不幸が不幸を呼び、負の連鎖が続く物語の中で、登場人物それぞれが背負う「業」の闇が描かれる。今回はパリで開催されるフェスティバル・ドートンヌへの参加も予定。松尾自身が初演を「失恋のようだった」と語る作品が新たなキャストで蘇る。

作・演出:松尾スズキ 出演:松尾スズキ、平岩紙、池津祥子、伊勢志摩、穴戸美和公、宮崎吐夢、皆川猿時、村杉蟬之介、康本雅子+エリザベス・マリー (ダブルキャスト)

芸劇dance 勅使川原三郎「月に吠える」

8月24日(木)～27日(日) プレイハウス

詳細はP12へ



勅使川原三郎

©Akihito Abe

勅使川原三郎新作ダンス公演は、萩原朔太郎の詩集「月に吠える」をモチーフにした作品

昨年大好評を博した山下洋輔との共演「up」に続く新作。朔太郎の「月に吠える」の序文「月に吠える犬は、自分の影に怪しみ恐れて吠えるのである」に勅使川原は注目。その詩が持つ非日常感／日常感、日本的なものと異文化的なもの、怖れと美意識といった、相反するものの共存に触発された。ダンスで感じる詩的世界を表現するという。KARASメンバーに加え、勅使川原のダンス・メソッドを経験したダンサー、エヴィアン国際音楽祭で共演したマリア・キアラ・メツァトリ、イエテボリ・オペラ・ダンスカンパニーのパスカル・マーティが出演。鮮やかさ、きらめき、清らかさといった新たな陶酔の世界へと導いてくれることだろう。

文:森菜穂美(ライター)

振付・美術・照明・衣装・選曲・出演:勅使川原三郎

出演:佐東利穂子／鰐川枝里／マリア・キアラ・メツァトリ／パスカル・マーティ(イエテボリ・オペラ・ダンスカンパニー)

芸劇dance タバマ企画「コンダクター」／廣田あつ子×加藤訓子×広田稔「BACH」

9月8日(金)～10日(日)／22日(金)～24日(日) シアターイースト

詳細はP13、14へ



タバマ企画



加藤訓子

©m.ohba

芸劇で楽しむ、刺激的な2作

若手ダンサーやダンスカンパニー、また他ジャンルとのコラボレーションによるチャレンジングな作品などを紹介する芸劇dance若手提携シリーズ。

今年は、田畑真希が主催するタバマ企画がカンパニー創設10周年を迎えて挑む新作と、意欲的な活動を続けるパーカッションist加藤訓子とダンサー廣田あつ子、そして洋画家・広田稔の3人のアーティストのコラボレーションによる「BACH」の2作品を上演します。

タバマ企画「コンダクター」／振付・演出:田畑真希

「BACH」／出演:廣田あつ子(ダンス)／加藤訓子(音楽)／広田稔(ライブ・ペインティング)

芸劇eyes 贅沢貧乏「フィクション・シティー」

9月28日(木)～10月1日(日) シアターイースト

詳細はP14へ



「デンデン」(2016年)

Photo: Hideto Maezawa

平成生まれの話題の劇作・演出家、芸劇eyesに登場!

この1、2年、東京の小劇場を目ざとくチェックする人の間で、噂の中心になっていた贅沢貧乏。主な理由は、一軒家やアパートの一室に観客を招き入れ、建物が醸す生活感、周辺の地域性などのリアリティを取り込みながら、演劇作品としての強度を上げる取り組みをしてきた「家プロジェクト」。そのスキルをステップアップさせて、いよいよシアターイーストという劇場空間に挑む。作・演出・主宰の山田由梨は平成生まれ。新世代の芸劇eyesの口火を切る公演になることだろう。

文:徳永京子

作・演出:山田由梨 出演:田島ゆみか／大竹このみ／神崎れな／猪俣三四郎／和田瑠子／野口卓磨／森準人／猪瀬青史／山田由梨

Concert Hall

1日(土) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第199回土曜マチネーシリーズ

出演 小林研一郎(Cond)／遠藤真理(Vc)／読売日本交響楽団
曲目 ドヴォルザーク／チェロ協奏曲
チャイコフスキー／交響曲第3番「ポーランド」
料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

2日(日) 14:00開演 BOX

読売日本交響楽団
第199回日曜マチネーシリーズ

出演 小林研一郎(Cond)／遠藤真理(Vc)／読売日本交響楽団
曲目 ドヴォルザーク／チェロ協奏曲
チャイコフスキー／交響曲第3番「ポーランド」
料金 S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

3日(月) 19:00開演 BOX

モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団

出演 ユーリ・シモノフ(Cond)／上原彩子(Pf)／大谷康子(Vn)／モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団
曲目 ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲第1番
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲第1番
チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」
料金 S:12,000円／A:10,000円／B:8,000円／C:6,000円
問合せ コンサート・ドアーズ 03-3544-4577

4日(火) 19:00開演 BOX

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

出演 ミハエル・ザンデルリンク(Cond)／ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
曲目 ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」
ショスタコーヴィチ／交響曲第5番
料金 S:14,000円／A:12,000円／B:10,000円／C:8,000円／D:6,000円
問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

6日(木) Closed・関係者のみ

平成29年度 千代田区音楽鑑賞教室

7日(金) 19:00開演 BOX

読売日本交響楽団 第604回名曲シリーズ

出演 飯守泰次郎(Cond)／ネルソン・フレイレ(Pf)／読売日本交響楽団
曲目 プラームス／ピアノ協奏曲第2番
ワーグナー／舞台神聖祭典『パルジファル』から「第1幕への前奏曲」「聖金曜日の音楽」ほか
料金 S:7,500円／A:6,500円／B:5,500円／C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

8日(土)・9日(日) 14:00開演 BOX

日本フィルハーモニー交響楽団
第692回東京定期演奏会

出演 広上淳一(Cond)／ジャン＝エフラム・バウゼ(Pf)／日本フィルハーモニー交響楽団
曲目 モーツァルト／歌劇『魔笛』序曲
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲
R.シュトラウス／交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』
料金 S:7,200円／A:6,000円／B:5,200円／C:4,200円／P:3,200円／YS:1,500円
問合せ 日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911

12日(水) 19:00開演 BOX

読売日本交響楽団 第570回定期演奏会

出演 鈴木秀美(Cond)／ダヴィッド・ゲリエ(Hr、Tp)／読売日本交響楽団
曲目 ハイドン／歌劇『真の貞節』序曲
ホルン協奏曲第1番
ベートーヴェン／交響曲第7番 ほか
料金 S:7,500円／A:6,500円／B:5,500円／C:4,000円
問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

13日(木) 18:30開演 BOX

東京音楽大学シンフォニックウインドアンサンブル
第48回定期演奏会

出演 時任康文(Cond)／東京音楽大学シンフォニックウインドアンサンブル
曲目 C.T.スミス／フェスティヴァル・ヴァリエーション
J.マッキー／オーロラ目覚め
バーンスタイン／『ウェスト・サイド・ストーリー』より「シンフォニック・ダンス」ほか
料金 【全席指定】1,500円
問合せ 東京音楽大学 演奏課 03-3982-2496

14日(金) 18:30開演

NIPPON SYMPHONY CONCERT
Vol.25 SUMMER FESTIVAL

出演 新田孝(Cond)／田中照子(Pf)／佐々木京子(Pf)／松井利世子(Vn)／海野義雄(Vc)／吉田貞美(Ms)／河野鉄平(Bs)／ニッポン・シンフォニー合唱団／NIPPON SYMPHONY
曲目 マンシーニ(新田孝編)／ピアノとオーケストラのための「ひまわり」
アレンスキー／ピアノ協奏曲より
ベートーヴェン／ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲 ほか
料金 SS:7,000円／S:6,000円／A:5,000円／B:4,000円
問合せ NIPPON SYMPHONY 090-6927-3447

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケット取扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)

※プログラム、出演者等に変更がある場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

略語表
アルト(A)／ベース(B)／バリトン(Br)／バス(Bs)／コントラバス(Cb)／チェンバロ(Cemb)／合唱(Chor)／クラリネット(Cl)／指揮者(Cond)／ユーフォニアム(Euph)／ファゴット(Fg)／フルート(Fl)／ハープ(Hp)／ホルン(Hr)／メゾソプラノ(Ms)／オーボエ(Ob)／パイプオルガン(Org)／パーカッション(Per)／ピアノ(Pf)／ソプラノ(S)／サクソフォーン(Sax)／テノール(T)／トロンボーン(Tb)／ティンパニ(Timp)／トランペット(Tp)／チューバ(Tub)／ヴィオラ(Va)／チェロ(Vc)／ヴァイオリン(Vn)

15日(土) 18:00開演 BOX

新交響楽団 第238回演奏会

出演 山下一史(Cond)／新交響楽団
曲目 リスト／交響詩『レ・プレリュード』
チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』
ニールセン／交響曲第4番「不滅」
料金 S:3,000円／A:2,500円／B:1,500円
問合せ コンサートイマジン 03-3235-3777

16日(日)・17日(月・祝) 14:00開演 BOX

都響スペシャル

出演 エリアフ・インバル(Cond)／アンナ・ラーション(コントラルト)
ダニエル・キルヒ(T)／東京都交響楽団
曲目 マーラー／交響詩「葬礼」
大地の歌
料金 S:8,000円／A:7,000円／B:6,000円／C:5,000円／Ex:4,000円
問合せ 都響ガイド 03-3822-0727

18日(火) Closed・関係者のみ

共立女子高等学校芸術鑑賞講座

19日(水) 19:00開演

警視庁音楽隊
プレミアムシンフォニックコンサート

出演 藤崎凡(Cond)／須川展也(Sax)／警視庁音楽隊
曲目 エレビー／シナモン・コンチェルト ほか
料金 入場無料(往復はがきによる事前申込制)
問合せ 警視庁音楽隊 03-3581-4321

7月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
12:00																	
13:00																	
17:00																	
18:00																	
18:30																	

25日(火) 19:00開演

立川志らく 独演会

料金 【全席指定】3,600円
問合せ 夢空間 03-5785-0380(平日10時～18時)

29日(土)・30日(日) BOX

マルタン・ズィメルマン「HALLO」

コンセプト・演出・デザイン・振付・出演 マルタン・ズィメルマン
料金 一般:4,000円／親子セット券(高校生以下対象):4,500円／65歳以上:3,500円／25歳以下:2,500円／高校生以下:1,000円
※65歳以上、親子セット、25歳以下、高校生以下の割引チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスにて、前売のみ扱い。(枚数限定・入場要証明書)
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

Theatre East

～9日(日)

創立75周年記念第2弾
劇団文化座公演149「故郷」

脚本 水上勉 作 八木柊一郎 演出 黒岩亮／鈴木完一郎
出演 阿部敦子／佐藤哲也／伊藤勉／有賀ひろみ／阿部勉／津田二郎／酒井美智子／高村尚枝／鳴海宏明／沖永正志／小谷佳加／白幡大介／滝澤まどか／水原美／皆川和彦／兼元菜見子／佐々木愛／嵐圭史(客演)ほか
料金 【全席指定】一般:5,500円／Uシート(平日夜公演のみ):4,000円／高校生以下:3,000円
問合せ 劇団文化座 03-3828-2216

12日(水)～15日(土) BOX

「他重人格 WHO AM I?」

作 館そらみ 演出 福島三郎
出演 山崎彬(悪い芝居)／大久保聡美／貴瀬雄二／野崎数馬(丸福ボンパース)／多田直人(キャラメルボックス)ほか
料金 【全席指定】前売:4,500円／当日:5,000円
問合せ TATICA 03-6869-9064

～1日(土)

平成29年度都立総合芸術高等学校
舞台表現科成果発表会(第6回定期公演)
演劇専攻「夏の夜の夢」

作 シェイクスピア 訳 小田島雄志
出演 演劇専攻3年次生 料金 入場無料(事前予約)
問合せ 東京都立総合芸術高等学校舞台表現科 03-3354-5288

6日(木)～26日(水) BOX

「OTHER DESERT CITIES」

作 ジョン・ロビン・ペイツ 台本 早船歌江子 演出 熊林弘高
出演 寺島しのぶ／中村蒼／麻実れい／中嶋しゅう／佐藤オリエ
料金 【全席指定】9,500円
問合せ 梅田芸術劇場 0570-077-039

7月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:30																					
19:00																					

16日(日)・17日(月・祝)

中野ブラザーズ70周年記念プレ企画
「グローバル・エンターテインメント・フェスティバル in 東京」

作・演出 白井博之(G・EーJAPAN) 特別ゲスト 中野章三(中野ブラザーズ)
出演 社会福祉法人かがやき神戸「土曜日の天使達」
料金 【全席自由】前売:4,000円／当日:4,500円／子供(小6以下)は上記の半額／乳幼児無料
問合せ 株式会社G・EーJAPAN 072-800-5207

21日(金)～30日(日) BOX

「気づかいルーシー」

原作 松尾スズキ(千倉書房「気づかいルーシー」) 脚本・演出 ノゾエ征爾
出演 岸井ゆきの 栗原類／川上友里 山口航太 ノゾエ征爾／山中崇 小野寺修二
音楽 田中馨 森ゆに
料金 【整理番号付自由席】大人:4,000円／高校生以下:1,000円／こどもセット券:4,000円(大人1枚、小学生以下のお子様1枚)／65歳以上:3,000円／25歳以下:2,500円
※65歳以上、25歳以下の割引チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスにて、前売のみ扱い。(枚数限定・入場要証明書)
※こどもセット券は窓口・電話のみ取扱い、3歳未満のお子様はご入場いただけません。
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

7月	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00										
14:00										
19:00										

※一部団体予約あり
◎視覚障害者のための舞台説明会(要予約)
○聴覚障害者のためのボータル字幕機提供(要予約)

27日(木) 19:00開演

三遊亭王楽 ひとり会
～拝啓、圓朝師匠～

料金 【全席指定】:3,600円
問合せ 夢空間 03-5785-0380(平日10時～18時)

28日(金) 19:00開演

春風亭百栄 独演会
～ニャアと百栄と落語と～

料金 【全席指定】:3,600円
問合せ 夢空間 03-5785-0380(平日10時～18時)

30日(日) 13:00開演

三遊亭兼好 独演会
兼好庵～夏、うごく～

料金 【全席指定】:3,600円
問合せ 夢空間 03-5785-0380(平日10時～18時)

8

AUG

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

火

水

木

金

土

日

月

火

水

木

金

土

日

月

火

水

木

金

土

日

月

火

水

木

金

土

日

月

火

水

木

金

土

日

月

東京芸術劇場

ボックスオフィス

0570-010-296

「

休館日を除く

」

10:00～19:00

東京芸術劇場

ホームページ

www.geigeki.jp

休館日

14日(月)・28日(月)

Concert Hall

2日(水)・3日(木)

BOX

美少女戦士セーラームーン25周年記念

Classic Concert

Sailor Moon on Classic

出演

吉田誠(Cond)／小坂明子、SUGURU(Pf)／石田耀子(Vo)／寺下真理子(Vn)／東京フィルハーモニー交響楽団

曲目

ムーンライト伝説、乙女のポリシー ほか

料金

S:8,900円／A:7,900円

問合せ

サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

4日(金) 18:30開演

東京大学音楽部管弦楽団

サマーコンサート2017東京公演

出演

三石精一(Cond)／東京大学音楽部管弦楽団

曲目

チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」ほか

料金

S:1,500円／A:1,000円

問合せ

チケット担当 090-3507-6045

5日(土) 14:00開演

BOX

第35回日本ナショナル・ミュージック・キャンプ

ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ

サマー・コンサート2017

出演

キンボー・イシイ(Cond)／山下洋一(Vn)／ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ

曲目

チャイコフスキー／弦楽セレナーデ
ヒンデミット／ウェーバーの主題による交響的変容
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

料金

S:2,500円／A:1,500円

問合せ

ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ 03-3748-5441

6日(日) 11:00開演／14:00開演

BOX

第43回日本フィル

夏休みコンサート2017

出演

梅田俊明(Cond)／江原陽子(お話とうた)／塩田美奈子(S)／城宏憲(T)／与那城敬(Br)／日本フィルハーモニー交響楽団

曲目

【第1部】ヘンデル／「水上の音楽」より「アラ・ホーンパイプ」
ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」第1楽章 ほか
【第2部】ビゼー／オペラ『カルメン』
(日本フィル夏休みコンサート2017版)
【第3部】みんなであうおう
【子供】S:3,200円／A:2,500円／B:1,800円／
【大人】S:5,200円／A:4,200円／B:3,200円

問合せ

日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911

8日(火)

BOX

パイプオルガン講座2017

第68回 ーコンサート & こうさくー

コンサート 13:00開演

親子で楽しめるパイプオルガン・コンサート

出演

川越聡子(Org)／サクソフォン四重奏(芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー)

曲目

※12:30～ プレ・コンサート
J.S.バッハ／フーガト短調 BWV578
ヘンデル(伊藤康英編曲)／オンブラ・マイフ
ビエルネ／民謡風ロンドの主題による序奏と変奏 ほか
♪みんなで「きらきら星」を演奏しよう

料金

【全席自由】500円 ※3歳からこ入場いただけます

こうさく 14:00開演

夏休み! 紙工作で紙パイプを作ろう!

講師

三橋利行

料金

1,000円(定員60名)

※材料費込 ※小学4年生以上対象、要ハサミ持参

問合せ

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

9日(水) 18:00開演

BOX

第31回ファミリークラシックコンサート

～ドラゴンクエストの世界～

出演

すぎやまこういち(Cond)／東京都交響楽団

曲目

すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエストⅪ」
過ぎ去りし時を求めて
『レクイエム』

料金

S:5,000円／A:4,000円／B:3,000円

問合せ

エラート音楽事務所 075-751-0617

10日(木) 18:30開演

BOX

ズーラシアンフィルハーモニー管弦楽団

親子のためのクラシックコンサート

出演

オカビ(Cond)／ズーラシアンフィルハーモニー管弦楽団

曲目

蝶々コンチェルト
ポップコーンラグ
世界のかわいいかくれんぼ
森のくまさん チャイコに出会った。ほか

料金

S:4,500円／A:4,000円／B:3,500円／C:3,000円／D:1,500円

問合せ

スーパークッズ 042-765-7284

11日(金・祝) 18:00開演・12日(土) 14:00開演

BOX

Disney on CLASSIC Premium Concert

『パイレーツ・オブ・カリビアン／呪われた海賊たち』フィルム∞コンサート

出演

齊藤一郎(Cond)／ささきフランチェスコ(ナビゲーター)／THE ORCHESTRA JAPAN

曲目

『パイレーツ・オブ・カリビアン／呪われた海賊たち』映画全編

料金

S:9,500円／A:8,500円／学生:1,500円

問合せ

ハーモニージャパン 03-3409-3345

BOX

東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケット

取扱いのある公演(取扱いのない券種もございます)

※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

※原則未就学児のご入場はお断りしています。

13日(日) 15:00開演

BOX

ヴェルディ「レクイエム」

出演

中島良史(Cond)／石上朋美(S)／押見朋子(Ms)／高橋淳(T)／青山貴(Bs)／合唱団YN「愉快な仲間」たち／YNオーケストラ「愉快な仲間」たち

曲目

ヴェルディ／『ラ・トラヴィアータ』第3幕より前奏曲
『レクイエム』

料金

S:5,000円／A:4,000円／学生S:2,500円／学生A:2,000円

問合せ

ムラダーブラハ企画 コンサート事務局 070-6485-4492

15日(火) 18:30開演

BOX

東京フィルハーモニー交響楽団

ハートフルコンサート2017

出演

小林研一郎(Cond)／黒柳徹子(お話)／村治佳織(Gt)／東京フィルハーモニー交響楽団

曲目

チャイコフスキー／歌劇『エフゲニー・オネーギン』より「ロバネーズ」
ロドリゴ／アランフエス協奏曲
スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より「モルダウ」ほか

料金

S:6,200円／A:5,100円／B:4,100円／C:3,600円

問合せ

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522

19日(土) 17:00開演

BOX

N響JAZZ at 芸劇

出演

ジョン・アクセルロッド(Cond)／塩谷哲(Pf)＊／NHK交響楽団

曲目

ショスタコヴィチ／二人でお茶を (タビチ・トロット) Op.16
ジャズ組曲 第1番＊
チック・コリア／ラ・フィエスタ＊
バーンスタイン／『オン・ザ・タウン』より「3つのダンス・エピソード」
『ウエストサイド物語』より「シンフォニック・ダンス」

料金

SS:7,000円／S:6,200円／A:5,400円／B:4,600円／C:3,800円／D:3,000円

問合せ

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

20日(日) 14:00開演

BOX

読響サマーフェスティバル2017

《三大交響曲》

出演

鈴木優人(Cond)／読売日本交響楽団

曲目

シューベルト／交響曲第7番「未完成」
ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」
ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界から」

料金

S:7,500円／A:5,500円／B:4,500円／C:4,000円

問合せ

読響チケットセンター 0570-00-4390

24日(木) 19:00開演

BOX

読響サマーフェスティバル2017

ルイージ特別演奏会

出演

ファビオ・ルイージ(Cond)／読売日本交響楽団

曲目

R.シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」
ハイドン／交響曲第82番「熊」
R.シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」

料金

S:6,000円／A:5,000円

問合せ

読響チケットセンター 0570-00-4390

Playhouse

1日(火)～6日(日)

BOX

ミュージカル・コメディ

「キス・ミー・ケイト」

作詞・作曲

コール・ポーター

脚本

ベラ&サミュエル・スワック

訳詞

なかにし礼

監訳

丹野郁弓

演出・振付

上島雪夫

出演

松平健／一路真輝／平方元基／水夏希／川崎麻世／ちあきしん／杉山英司(スズちゃん)／太川陽介 ほか

料金

【全席指定】S:7,000円／A:4,500円

問合せ

東宝テラザープ 03-3201-7777

8日(火)・9日(水)

BOX

りゅーとびあプロデュース

「星の王子さま」

原作

サン＝テグジュペリ

上演台本・演出

笹部博司

出演

井上芳雄／木村花代／上白石萌歌

料金

【全席指定】S:7,500円／A:6,500円

問合せ

りゅーとびあチケット専用ダイヤル
025-224-5521(11時～19時 休館日を除く)

11日(金・祝) 13:00開演

瀧川鯉昇・柳家喬太郎二人会

「古典こもり 其の十二」

出演

瀧川鯉昇／柳家喬太郎 ほか

料金

【全席指定】3,700円

問合せ

夢空間 03-5785-0380
(平日10時～18時)

12日(土) 17:30開演

対決!!「太月」VS「秩父」池袋編

三遊亭小遊三・林家たい平 二人会

出演

三遊亭小遊三／林家たい平 ほか

料金

【全席指定】3,900円

問合せ

夢空間 03-5785-0380
(平日10時～18時)

16日(水)～20日(日)

BOX

ブロードウェイミュージカル

「フロックとトード

～がま君とかえる君の春夏秋冬～」

原作

アーノルド・ローベル

演出

鈴木裕美

上演台本・訳詞

高橋亜子

音楽監督

八幡茂

出演

川平慈英／鈴木壮麻／戸井勝海／中山昇／宮菜穂子／樹里咲穂

料金

【全席指定】一般:5,000円／子ども(3歳～高校生):2,000円／親子(大人一人、子ども一人):6,000円

問合せ

チケットスペース 03-3234-9999

24日(木)～27日(日)

BOX

芸劇dance 勅使川原三郎

「月に吠える」

振付・美術・照明・衣装・選曲

勅使川原三郎

出演

勅使川原三郎／佐東利穂子／鰐川枝里／マリア・キアラ・メツァトリノ

パスカル・マーティ(イエテポリ・オペラ・ダンスカンパニー)

料金

S:5,000円／A:3,500円／25歳以下(A):2,500円／65歳以上(S):4,000円／高校生:1,000円

問合せ

KARAS(カラス) 03-5858-8189

Theatre East

1日(火)・2日(水) Closed・関係者のみ

地域創造フェスティバル2017

6日(日) 13:00開演

MIYABI METHOD コンサート 2017

料金

【全席自由】2,000円

問合せ

ミヤビ・メソード 03-6914-3392

10日(木)～9月3日(日)

BOX

大人計画

日本総合悲劇協会vol.6「業音」

作・演出

松尾スズキ

出演

松尾スズキ／平岩紙／池津祥子／伊勢志摩／穴戸美和公／宮崎吐夢／皆川猿時／村杉蟬之介／康本雅子＋エリザベス・マリー(ダブルキャスト)

料金

【全席指定】7,200円／ヤング券(22歳以下、チケットが前売りのみのお取り扱い):3,800円／高校生チケット(高校生のみ。東京芸術劇場ボックスオフィス前売りのみでのお取り扱い):1,000円

問合せ

大人計画 03-3327-4312

8月	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	9/1	2	3
14:00			◆	◆	休		◆		★	★	★	休		★		◆	◆	休		◆			★	★	
19:00	◆	◆	◆	休	演	◆	★	★	★	★	★	◆	★	★	★	★	★	◆	◆	◆	◆	★	★		

★印…康本雅子出演日／◆印…エリザベス・マリー出演日

Theatre West

1日(火)～3日(木) Closed・関係者のみ

地域創造フェスティバル2017

4日(金)～6日(日)

BOX

朗読「東京」第5回

演出

長部聡介

出演

手塚とおる／今井朋彦／高田聖子 ほか

料金

【全席指定】一般:3,000円／高校生割引:1,000円
25歳以下:2,000円／65歳以上:2,500円

問合せ

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

10日(木)～13日(日)

AKA Company 第2回公演『SHE LOVES ME』

作

Joe Masteroff、Jerry Bock、Sheldon Harnick

演出

片島亜希子

出演

木暮真一郎／島田彩／tekkan／岡村さやか／小南電平／有川マコト／坂口湧久／岩義人 ほか

料金

【全席指定】
前売…S:6,800円／A:5,800円
当日…S:7,000円／A:6,000円

問合せ

カタシマオフィス 03-5843-7632

17日(木)～21日(月)

劇団ホチキス本公演「P. T. A」

作・演出

米山和仁

出演

大西洋夫／山崎雅志／加藤敦／斉藤美和子／山本洋輔 ほか

料金

【全席指定】
一般 5,500円／学生 2,500円
プレミアム(公演チケット＋特典):10,000円

問合せ

パレット 080-5489-7854

23日(水)～27日(日)

BOX

「ミレニアム桃太郎」

作・演出・振舞

松木史雄

出演

黒澤美滯奈／神谷美保子 ほか

料金

【全席指定】
前売:5,000円／当日:5,500円

問合せ

Jステージ・ナビ 03-5971-9002

31日(木)～9月3日(日)

キ上の空論#7

「青の凶器、青の暴力、手と手。この先、」

作・演出

中島庸介

出演

新垣里沙／高橋明日香／中村優／岩井七世／下垣真香／斉藤ゆき／野口オリジナル

料金

【全席指定】
前売:5,000円／当日:6,000円

問合せ

キ上の空論 090-5999-7452

7・8・9
JUL AUG SEP

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

Gallery 1 (5F)			
7	6月27日(火)～2日(日) 第6回 東精協心のアート展 問合せ 一般社団法人東京精神科病院協会 042-352-0541	8日(土)～9日(日) 第7回 つなぐ伝統展 問合せ あゆむ家 03-5784-2662	15日(土)～18日(火) Gallery 1・2 同時開催 第25回 国際平和美術展 問合せ IPA実行委員会 寺田 03-6853-0009
	20日(木)～23日(日) 第23回 新和様・漢字造型書作家協会選抜展 問合せ 石橋 03-3234-3956	26日(水)～30日(日) 第40回 東京都高等学校文化祭写真部門 A地区大会・B地区大会 問合せ 都立秋留台高等学校 山後 042-559-6821	
8	4日(金)～6日(日) ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア展 2017 料金 500円(学生は無料) 問合せ ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア 03-6205-7529	11日(金・祝)～13日(日) 第16回 佑青書道会 佑友展 問合せ 山田 090-3483-0826	18日(金)～20日(日) 第13回 創書展 問合せ 清水 090-5206-8708
	21日(月)～27日(日) 第32回 日本の海洋画展 問合せ 一般財団法人全日本海員福祉センター 03-3475-5391	30日(水)～9月3日(日) 第14回《書統》全国展 問合せ 宣原書房《書統》事務局 03-3462-5251	
9	5日(火)～10日(日) 2017 全日本山岳写真展 問合せ 村田 090-8642-8808	13日(水)～16日(土) 日本ヨーロッパ交流展 問合せ クリエイト・アイエムエス株式会社 03-5318-9061	17日(日)～21日(木) 秋の日本水墨画展 問合せ 竹中 048-474-2239
	23日(土・祝)～27日(水) 第14回 全国阿波藍染織作家協会展 問合せ 糸井 080-3272-7480	30日(土)～10月1日(日) 公益社団法人松風花道会 いけばな展 問合せ 公益社団法人松風花道会 03-5940-2918	
Gallery 2 (5F)			
7	6月30日(金)～1日(土) 第6回 東精協心のアート展に 関連する映画上映 問合せ 一般社団法人東京精神科病院協会 042-352-0541	15日(土)～18日(火) Gallery 1・2 同時開催 第25回 国際平和美術展 問合せ IPA実行委員会 寺田 03-6853-0009	
	25日(金)～27日(日) 第5回 水の会(東京地区)かな書展 問合せ 中室 084-994-8753		
8	30日(土)～10月1日(日) 映月松風流創流80周年記念いけばな展 「花のすがた～薫～」 問合せ 佐藤 03-3428-5163		
Atelier East (B1F)			
7	6月27日(火)～2日(日) 静山書会展 問合せ 津田 03-3915-5674	3日(月)～9日(日) ホームシックギャラリー倶楽部 「大人しいロック」展 問合せ 三須 090-2631-0502	11日(火)～17日(月・祝) 2017三軌会写真部 第11回東京多摩支部展 問合せ 塚田 090-4953-3162
	20日(木)～23日(日) 第15回豊島フォトクラブ作品展 問合せ 森岡 03-3917-7726/ 090-3081-0913	26日(水)～30日(日) 第2回写真の社合同作品展 問合せ 富田 090-8840-1652	
8	4日(金)～7日(月) INAOフラワーアレンジメントスタジオ ローラーワークス展 問合せ 林 090-9682-2513/ 03-3576-6055	8日(火)～13日(日) 第3空間 Tokyo Parnassus 問合せ 松崎 03-3972-1476	27日(日) 寺子屋塾 舞台美術家養成講座 問合せ 秋山 090-1730-4751
	29日(火)～9月3日(日) 第25回 グランプリ写真展 問合せ 館野 090-2740-6443		
9	4日(月)～10日(日) '17 板画の会展 問合せ 渡辺 03-3376-4639	12日(火)～16日(土) 第13回 日本画 一会の会展 問合せ 島作 048-445-2984	17日(日)～21日(木) 東風会 第10回作陶展 問合せ 岸田 0422-43-8394
	22日(金)～27日(水) 第6回 火洋会 問合せ 天辻 042-421-2951	28日(木)～10月1日(日) 第二十八回泰永書展 ハンガリー国際交流展 問合せ 也太奇(やたいき)内 マツザト 03-3332-3701	
Atelier West (B1F)			
7	6月27日(火)～2日(日) 法政大学カメラ部 六月展 問合せ 廣田 080-4131-5053	3日(月)～9日(日) 関谷文男 油絵個展 問合せ 関谷 090-6318-4960	26日(水)～30日(日) 第46回 くれよん展 問合せ 伊藤 03-3915-2891
	5日(土)～6日(日) 錦花池坊夏季研究会習作展 問合せ 錦花池坊 旭宝庵 加藤 090-8492-9853	9日(水)～13日(日) グループ恵展 第41回展 問合せ 大野 090-1254-1409/ 080-2007-9041	22日(火)～27日(日) サロンDEポンドール会員展 問合せ 浜崎 03-5932-1518
8	30日(水)～9月3日(日) 第6回キャンノンフォトクラブ 東京DEMI写真展 問合せ 石川 090-4669-1131		
	4日(月)～10日(日) 写談撮んぼ 第12回写真展 問合せ 古谷 03-3487-3435	16日(土)～21日(木) 矢澤利彦欧州紀行 問合せ 矢澤 03-5951-6908	22日(金)～27日(水) 第32回 新生会展 問合せ 加山 03-3930-2035
9	29日(金)～10月1日(日) 第4回酒井康堂・子遠一門会 忘形印杜展 問合せ 周 080-6670-0567		

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

近藤良平・コンドルズ「にゅ～盆踊り」

無 料

7月15日(土)・16日(日) 17:30～ 池袋西口公園



撮影：浦戸直志

池袋の夏の風物詩「にゅ～盆踊り」 今年はずいに、10周年!

近藤良平・コンドルズと一緒に夏の池袋で、盆踊り大会に参加しませんか?

毎年大好評の「にゅ～盆踊り」今年も2日間の開催が決定しました!近藤良平・コンドルズならではのユニークな仕掛けも満載、こどもから大人まで、踊って笑って楽しめるお祭りです。年々参加者数も増え、昨年はなんと約9,500人が参加。事前ワークショップに参加して、盆踊りリーダーとして当日を盛り上げるもよし、ふらっと遊びにきていただくもよし。

今年も、皆さんと一緒に!

【お問合せ】あうるすぽっと 03-5391-0751

【URL】<http://www.owlspot.jp/>

第15回東京フラフェスタin池袋2017

無 料

7月21日(金)～23日(日) 池袋各所



池袋から広がるフラの風

今年で15回目を迎える「東京フラフェスタin池袋」は、日本でも最大級のフラダンスイベント。今年の開催は、7月21日(前夜祭/池袋西口公園のみ)～23日の3日間。池袋西口公園や池袋東武百貨店屋上、サンシャインシティ噴水広場など池袋駅周辺6会場で、170を超えるフラダンスチームのステージが繰り広げられます。歴代表代表チームによる華麗なフラの演舞や人気講師による特別演舞の披露、ハワイアンバンドの演奏、そして連日、1日の最後に全員が一緒になって踊る「みんなで踊ろう!フラナイト」も。その他、ハワイアンジュエリーやフラダンス衣装などの模擬店や、ハワイアングルメなどの屋台もたくさん出店されます。真夏の池袋のまち全体がフラ一色に染まる3日間。ハワイの文化をご堪能ください。

【日程】7/21(金):前夜祭(池袋西口公園)／7月22日(土)・23日(日):本祭(池袋6会場)

【会場】池袋西口公園／池袋西口駅前広場／東武百貨店8F「スカイデッキ広場」／東池袋中央公園／サンシャインシティB1噴水広場／豊島区役所としまセンタースクエア

【お問合せ】豊島区観光協会 03-3981-5849(土日・祝日を除く9:00～18:00) 【URL】http://www.kanko-toshima.jp/Event/event_05.html

集まれ! 池袋みんなの大道芸

無 料

9月～11月の週末 劇場前広場

詳細はHPへ



チャレンジ広場



松本かなこ

一流のストリートパフォーマンスを 劇場前広場で

ゴールデンウィークに賑わいをみせた「集まれ!池袋みんなの大道芸」が引き続き今秋にも開催。圧巻のアクロバットパフォーマンス、コミカルなパントマイム、妖艶なマジック、自由に駆け回る長足のウォーキングアクト等、劇場前広場が大道芸で染まります。第一線で活躍する選りすぐりのストリートパフォーマーたちの魅力をぜひ味わいにお越しください。ポールやディアボロなどの技を体験できる「チャレンジ広場」も同時開催します。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

野
田
秀
樹ジ
ョ
ン・ケ
ア
ー
ド

HIDEKI NODA × JOHN CAIRD

野田さんに演じてほしい役、
もう決めています。

演劇人としてお互いを尊敬し合う、野田秀樹とジョン・ケアード。

家族ぐるみの付き合いも長いというふたりの対談が実現した。

ケアードが『ハムレット』の稽古中だったこともあり、

話題はシェイクスピアのことに。エキスパートであるケアードと、

シェイクスピアを題材に複層的な舞台を生み出してきた野田。

戯曲、演出、翻訳と話は弾み、いつか生まれるかもしれない

夢の舞台にまで話題は広がった。

シェイクスピアの戯曲は全作がつながっている

—— ケアードさんは、ちょうどタイミングが合って野田地図の『足跡姫～時代錯誤冬幽霊～』をご覧になったそうですね。

ケアード 素晴らしいかったです。勘三郎さん(十八代目中村勘三郎)のことを描いていると聞いてましたが、野田さんから勘三郎さんへの特別なラブレターを観ているような感じがしたね。以前、お家を訪ねた時に「足跡から始めようと考えているんだよ」と教えていただいていたんですね。その話を聞いたので、いつも以上に楽しみにしていました。

野田 僕、日本の人には厳しいんですけど、海外の人には結構、事前に(自作のアイデアを)喋ってしまうんです。あちこちに漏れないと思うから(笑)。

ケアード その点は安心してください。僕はどこにも漏らしませんでしたよ!『足跡姫』と僕が演出する『ハムレット』は似ている部分があるんです。なぜならどちらも、歴史を辿り、それが人々にどういう影響を与えたかを考えることがとても重要になっていますから。

—— おふたりが知り合ったのは?

野田 ロンドンで初めて『THE BEE』を上演した時のパーティーですね。だから2006年かな。

ケアード 野田さんの仕事については耳にしていたし、日本人で女優である私の妻(今井麻緒子)は以前から野田さんと知り合いだったこともあって、ご挨拶しました。もう10年経つんですね。

野田 それからはお互いの家を行き来するようになって、ジョンさん一家のファミリーコンサートを聞かせていただいたり。もちろん、その前からお仕事は拝見していて、『レ・ミゼラブル』はロンドンで2回、日本でも観ていますし、新国立劇場で演出された『夏の夜の夢』(07年)も観ました。自分とは発想もつくりも全く違うけどおもしろい。『夏の夜の夢』の廻り舞台は「やられた!」と思いました。ミュージカル畑の演出家の発想とも違うんですね。

ケアード 野田さんのお仕事にはいつも興味を持っています。何故なら、政治的なことや歴史を扱っている戯曲で、詩的なものが含まれているものは日本にあまりないと思うんですが、野田さんの芝居にはそれがある。そして風刺が込められている。そこにヨーロッパ的な匂いを感じます。テーマはとても深刻ですが、深刻になり過ぎないスタンスにとっても共感を覚えるんです。大事なことを軽いタッチで描くやり方が大好きなので。

—— 野田さんからケアードさんに「いつか東京芸術劇場でも演出を」というお話は?

野田 知り合った頃からずっとしていました。海外から来る演出家には、来日してひとつの作品の稽古だけして帰っていく人がある。それがダメだとは言

いませんが、やはり、日本の役者より深く長く仕事をしたいとか、日本の文化や歴史に興味のある演出家であるほうが、いい結果になることが多い。ジョンはもうずっとそれを続けていて、リスペクトに値する人です。

ケアード ありがとうございます。

—— 初めての芸劇で『ハムレット』を演出されたこともあり、ケアードさんにお好きなシェイクスピア作品をお聞きしたいのですが。

ケアード うーん……それに答えるのは難しいですね。

野田 知識が膨大な分、選ぶのが大変なんでしょうね。

ケアード シェイクスピアの戯曲は「全部まとめてシェイクスピア」と言いたくなるつながりがあるんです。やればやるほど「あの戯曲からこの話が生まれてきたんだな」ということが見えてくるんですね。例えば『ハムレット』の登場人物も、ハムレットはロミオがスケッチ(下書き)になっていると感じたり、リチャード二世が透けて見えてきたりします。クローディアスとガートルードも、このふたりが、後々、マクベスとマクベス夫人になっていくとイメージできる。

野田 おもしろい! でも、わかる気がします。

ケアード よく想像するんですよ。シェイクスピアが戯曲を書きながら「あ、ここからもうひとつ話が書けるぞ!」と思ったんじゃないかって。具体的な例を挙げると、『ハムレット』を書いていた時にシェイクスピアは、クローディアスが王を殺す時にガートルードが共犯者だったか、ちょっと考えてみたと思うんです。そして「いやいや、それはまた別の芝居にしよう」と思い直した気がする。『ハムレット』の中では、ガートルードは道徳的には問題があるものの、クローディアスの計画とは無関係に描かれているけれど、『マクベス』での妻は、むしろ自ら夫を誘導して王を殺させた。マクベス夫人は、ガートルードがもたっているように私には思えます。そんなふうに、ひとつひとつの戯曲が次から次へと繋がっていくので、これが1番お気に入りだと選ぶのはとても難しい。『夏の夜の夢』と『リア王』を比べることも私には不可能です。林檎とオレンジはどちらが美味しいかを比べるような無理難題なんです。

野田 片や祝祭劇の傑作、片や悲劇の傑作ですからね。僕も『夏の夜の夢』と『リア王』は比べられません。

—— ケアードさん、全部がつながっているとしたら、どうやって次に演出する作品を選ぶのでしょうか?

ケアード 役者ですかね。その役者だったら何がいいか、どんな役がふさわしいかを考えます。シェイクスピアは特にそう。この役者はフォルスタッフかな、この役者だったらロミオかなと、見ているうちに何かに感じていくんです。

野田 今回の『ハムレット』も、内野聖陽さんを見ていて合うだろうと?

ケアード 以前、内野さんと話をしていたら、彼が「シェイクスピアの作品を何かやりたい」と言ったんです。すでに演じているとばかり思っていたんですけど、ふと「ハムレットは?」と聞いたら「やっていない」と。私は、彼にはハムレットの要素があると感じていましたから、驚いて「考えたことはないの?」と聞いたら、「まあ、いつかは」と言うんですね。「いつか? 早くやらなきゃ! やろうよ!」と(笑)。

若い頃は退屈に思えたシェイクスピア

—— 野田さんも何作かシェイクスピア戯曲を翻案されていますが。

野田 翻案というか、ほとんど壊していますけどね(笑)。でも、もちろん好きですよ。高校生の時に『ロミオとジュリエット』で初めてシェイクスピアに触れて、まんまと演劇にハマりましたし。一番最初に自分で採り上げたのは『十二夜』(『野田秀樹の十二夜』、86年)でした。そういえば(戯曲を選んだ理由はケアードさんと同じで)役者が大きかったですね。大地真央さんでシェイクスピア戯曲をやることは決まっていたんですが、大地さんなら(宝塚で男役だった



ので)姉と弟をひとり二役でやれる、じゃあ『十二夜』だなど。

——他にも『から騒ぎ』(90年)や『リチャード三世』(『三代目、りちゃあど』、90年)、『夏の夜の夢』(『野田秀樹の真夏の夜の夢』、92年)があります。

野田 『から騒ぎ』にしる『三代目、りちゃあど』にしる、他の物語や事件などいろいろな要素を混ぜました。若い頃の僕には、シェイクスピアをそのまま上演するのは退屈に思えたんです。ジョン、これはイギリスでは絶対に許されない行為でしょ？ そんな作品を発表した時点で、演劇人として葬られますよね。

ケアード とても興味深い話ですね。少し前までロンドンのグローブ座はエマ・ライスさんという演出家が芸術監督でしたが、まさにそういうこと(シェイクスピア戯曲の大胆なアレンジ)をやって非難を浴び、解雇されてしまったんです。でも私は、解雇されるべきではなかったと思っています。彼女は演劇的にもおもしろい挑戦をたくさんしましたし、あまりにも純粋にシェイクスピアを追求するのはどうなんだろうとも思います。シェイクスピア自身、いろんなところからアイデアを持ち込んだ人ですから。歴史上の出来事だったり、既存の戯曲や他の国から来た話など、何かしらベースにしたものがあるんですよ。それを採り入れ、咀嚼し、自分でつくり直した。

——シェイクスピアを巡る環境は、まだまだ本国では窮屈なんですね。

野田 忘れてはいけないのは、日本人がシェイクスピアを体験する場合、ほとんど必ず翻訳を通すということ。やっぱりシェイクスピア戯曲をすべて日本語で表現するのは絶対に無理なんです。僕もきちんと原語で読んだことはないけど、少し読んだだけでも「こんなに厳密に、美しく韻を踏んでいたのか」と驚くんですよ。だから僕が退屈だと感じた戯曲も、原語で演じて見せられたら、きっとまったく違うものとして受け止められると思います。日本の翻訳家の皆さんも、精一杯の言葉遊びをし、韻を踏み、見事な訳もありますけど、時には無理があったり、リズムを失ったりすることは否めない。翻訳は、それだけでひとつの文学ですから、とても難しいんです。

——訳されると言葉遊びが伝わらない問題は、野田さんご自身もイギリスや海外での上演で実感されてきたことではないですか。

野田 最初はかなり痛い目に遭いましたね。言葉遊びによってストーリーが進むところが進んでいかない。「水ぶくれ、シルブプレー！」とか、訳しようがないのを無理して訳そうとしたり(笑)。たぶん我々日本人が、翻訳されたシェイクスピアを読んで「なぜここがおかしいんだろう？」と感じるのと同じでしょうね……って、自分をシェイクスピアと同じところに上げて話しちゃった(笑)。——ある時期からは、ご自分の戯曲が海外で上演されること、翻訳されることを認識して書いていらっしゃるんですか？

野田 いや、それを意識してしまうと言葉遊びは一切使えないので、そこは(日本語で成立すればいいと)割り切りました。いくつかは上手く訳せたとし

HIDEKI NODA

ても「喧嘩を売って聾聵を買う」なんて訳せませんよね。だから、最初から自分で英語で書く場合以外は、最初からそこは考えずに進めます。まあ、演出的なことやビジュアル面は、海外の人も必ず、細かい内容はわからなくてもおもしろいと言ってくれます。それはここ何年か、特にフランスで『エッグ』を上演した時の現地の反応で自信ができましたね。

ケアード 日本人の役者で日本語のまま海外に持っていくのはいいことだと思いますよ。おおよそのストーリーは字幕で説明して。

野田 そう、そのやり方がいいですね。意外とお客さんはわかってくれる。

ケアード オペラもそうですね。歌詞をせりふとして聞き取れる人は少なくとも、あらすじがわかっていれば、役者や演出のオリジナルの良さを保ったままできる。

——ジョンさんは、ご自身がよくご存知のシェイクスピアの原文の美しさ、リズムなどが翻訳ではストレートに伝わらないことに、フラストレーションを感じたりはしませんか？

ケアード それはありません。翻訳の難しさは初めから理解しています。原文は現代のイギリス人にとってさえ難解です。ですから、野田さんが今おっしゃったやり方、伝え方は、とても正しいと思います。何かひとつ明快な正しい方法があるわけではなくて、オリジナルのなるべく近くまでいくことを目指す、それが大事なんです。そもそもシェイクスピアは(劇作家になる前は)役者だった。それはどういうことかということ、役者が演じる時にはどうなるかを、かなり具体的に想像しながら書いたと思うんです。時々、読むだけでは完全に理解できない、ある意味、未完成のせりふがあるんですが、役者がこう演じてくれるだろうから成立するという、演じられて初めて完成する部分が戯曲に含まれているんです。そういう部分は、イギリスでやっても読んだだけでは理解できません。リハーサルを重ねて、役者が役に入っていくと「ああ、こういうことだったのか」と生きてくるシーンはたくさんあります。

野田 そういうところがむしろ、時代や場所を飛び越えて、おもしろいと感じられる部分ですね。

ケアード ええ。いいプロダクションだと、まるでそのせりふが昨日書かれたような生き生きした言葉に聞こえてくる。ひどいプロダクションだと、やっぱり400年前に書かれた戯曲だ(自分たちには関係ない)と観客に思われるような芝居になってしまいます。

野田 現代戯曲であってもそうですね。つまらない芝居は古臭く感じる。

野田さんに演じてほしい役は決まっている

ケアード 私が日本でシェイクスピアを演出する時、日本人の役者で、現代語でやろうと思うのは、その柔軟性を優先させたいと考えるからです。今回もそうしたんですけど、稽古の始まりは全員でひたすら戯曲を読んで、疑問



撮影：横山紀信

JOHN CAIRD

や意見を出し合って、想像力を使ってみんなで議論をします。このジョークは どうやって言ったらいいかという問題を真剣に討論したり(笑)。その人物がその時に何を考えているかに一番の重きを置いて、それがどう言葉に投影されているのか、反映されていくかを丁寧に考えました。その上で、必要と判断すれば戯曲をカットしたり。そうして役者がその役に入っていくと、せりふの細部は大事ではなくなってきて、最終的にはドラマそのものが主導権を握っていくことになります。

野田 それは日本人の役者にとって、とても貴重な時間でしょう。今回の『ハムレット』の翻訳は松岡和子さんですよね？

ケアード かなり話し合いをしています。シェイクスピアの戯曲には時々、わざと複数の意味に取れるように書かれたんじゃないかと思えるせりふがあるんですよ。それは英語だと楽しいですね。演じる側にとっては、いろんな可能性を含ませられますから。ところが翻訳すると、どれかひとつに決めなければいけなくなる。小田島(雄志)さんはこれを選んだ、でも松岡(和子)さんは別の意味を取ったと、意見が分かれることもあります。松岡さんの選択について私が「こうではないと思う」と言うと、彼女が英語版の脚注を示して「でも見て、この学者はこう言っている」と言い、ぶつかる場合も時には出てきます。とにかく、いろいろなところで話し合いをしています。

野田 日本でも古典の翻訳で同じことが置きますね。たとえば千年前に書かれた『源氏物語』、あれを現代語に訳そうとすると、「をかし」とか言葉としては残っているんだけど、書かれた当時にどういう感覚で使われていたのかはよくわからない。研究している学者はいるけど、それだけが正しいとは限らない。

ケアード 言語というものは、どの地域のものであれ、変わっていくんですよね。どんなに優れた翻訳だって、時間が経てば古びてしまうことはあります。400年前の言葉で訳すということは、もう私たちにはできないわけですよね。50年前の日本語でさえ、人によっては20年前の訳でさえ、古いと感じてしまう。それを上演する私たちは、題材がなんであっても常に、自然に、言葉も感覚も見直していかなくさいけないと思います。

野田 同感です。

——最後にジョンさんにお聞きします。役者さんを見て、この人はこの役がいいんじゃないかと考えることがあるとのことですが、野田さんをご覧になって「シェイクスピアのこの作品でこの役を」とイメージされたことはありますか？

ケアード 私がそれを考えてないと思ってるでしょう？ もちろん考えていますよ。でも内緒です(笑)。少しだけ秘密をもらすと、喜劇です。

野田 なんだろうな？ でも僕も、ジョンの演出で出るとしたら、絶対に悲劇よりは喜劇がいいと思います。

取材・文：徳永京子
通訳：今井麻緒子 写真：渡部孝弘



撮影：引地信彦



今回のアイタイヒト

ジョン・ケアード JOHN CAIRD

フリーランスの演出家・作家として、演劇、オペラ、ミュージカルの分野で活躍。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)では名誉アソシエートディレクターを務め、これまでに30以上もの古典や新作の演出を手がけてきた。「レ・ミゼラブル」と「ニコラス・ニコルビー」は世界中で受賞多数。ミュージカルの台本作家、作詞家として、「ペガーズ・オペラ」「ピーター・パン」「キャンディード」「チルドレン・オブ・エデン」「ジェーン・エア」「ダディ・ロング・レッグス」「リトル・ミス・スクルージ」など。日本では「レ・ミゼラブル」「キャンディード」「ペガーズ・オペラ」「私生活」「ダディー・ロングレッグス」「夏の夜の夢」「ジェーン・エア」宮本輝の小説を舞台化した「錦織」が上演。今年秋には、日比谷のシアタークリエで「ダディ・ロング・レッグス」の脚本と演出を手掛ける。

野田秀樹 HIDEKI NODA

劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。92年に「劇団 夢の遊眠社」を解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画製作会社「NODA・MAP」を設立。以来「キル」「赤鬼」「パンドラの蜂」「THE BEE」「ザ・キャラクター」「エッグ」「MIWA」「逆鱗」「足跡姫～時代錯誤冬幽霊～」など、様々な話題作を発表。『野田版 研辰の討たれ』など歌舞伎の脚本・演出や、モーツァルト歌劇「フィガロの結婚～庭師は見た！～」等、オペラの演出、海外での共同制作など、演劇界の枠を超え国内外で精力的な創作活動を行う。2015年よりブラジル、東北、東京など国内外の多種多様なアーティストとの文化混流による文化サーカス「東京キャラバン」を実施。2017年夏、京都、二条城での「東京キャラバン2017」の開催を予定するほか、8月、歌舞伎座での納涼歌舞伎にて、新作歌舞伎を上演予定。今秋は、十八代目中村勘三郎とのタッグで話題を呼んだ、伝説的作品「表に出ろいっ!」英語版の上演が決定している。

2017年秋 日本&海外上演予定 『表に出ろいっ!』 英語版
十八代目中村勘三郎と野田秀樹が初共演した、あの伝説の舞台が、この秋、英語版として蘇る！
作・演出：野田秀樹 出演：キャサリン・ハンター as “Father”／グリーン・プリチャード as “Daughter”／野田秀樹 as “Mother”
【チケット取扱い】東京芸術劇場ボックスオフィスほかプレイガイド 東京芸術劇場シアターイースト ほか www.geigeki.jp
八月納涼歌舞伎「野田版 桜の森の満開の下」
8月9日(水)～27日(日) 歌舞伎座
作・演出：野田秀樹 出演：中村勘九郎／市川染五郎／中村七之助／中村梅枝／市川猿弥／片岡亀蔵／坂東彌十郎／中村扇雀
http://www.kabuki-bito.jp/
「東京キャラバン2017」
9月2日(土)・3日(日) 京都市二条城内 9月9日(土)・10日(日) 八王子駅周辺／10月15日(日) 熊本市内
総監修：野田秀樹
http://tokyocaravan.jp/

東京芸術劇場 パイプオルガン講座2017

東京芸術劇場では、劇場のシンボルであるパイプオルガンについて、
楽器の構造、作曲家、楽曲などの知識を得たい人を対象にした講座を開講しています。

第68回 ― コンサート & こうさく ― 8月8日(火) コンサートホール



はじめてオルガンを聴くお子さまからおとなの方までお楽しみいただける“コンサート”と、紙工作で演奏できる紙パイプを作成し、ホールのステージでポジティブ・オルガンと一緒に「カッコウ」を合奏する“こうさく”のふたつの企画で親子でパイプオルガンを身近に感じていただける、夏休みにぴったりの講座です。

【コンサート】親子で楽しめるパイプオルガン・コンサート 13:00開演
オルガン:川越聡子／サクソフォーン四重奏(芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー)
料金:全席自由500円※3歳から入場可
【こうさく】夏休み! 紙工作で紙パイプを作ろう! 14:00開講
講師:三橋利行(高エネルギー加速器研究機構教授、理学博士)
料金:1,000円(定員60名)※材料費込 ※小学4年生以上対象、要ハサミ持参

オルガン紀行 14:00開講 コンサートホール

オルガンのある地域ごとに、それぞれの楽器の特徴やその地域のオルガン作品を紹介します。講義の後は、オルガンバルコニーで楽器を間近にご覧いただけます。

9月27日(水) 第69回【オルガン紀行 Vol.1】 料金:1,000円(各回定員60名)
11月16日(木) 第70回【オルガン紀行 Vol.2】 チケット発売:7月26日(水)
2018年1月18日(木) 第71回【オルガン紀行 Vol.3】

※未就学児入場不可、高校生以上対象 ※本講座でのオルガン演奏はございません



【チケット取扱】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日除く10:00~19:00) www.geigeki.jp/t/

メリー・スティルによる演劇ワークショップ

〈演出家・俳優コース〉



メリー・スティル

英国の演出家であり、デザイナー、振付家でもあるメリー・スティル氏は、その代表作「コラム・ボーイ」がロンドンとブロードウェイで上演され、ベスト・ディレクター賞を含む4つのオリバー賞と6つのトニー賞にノミネートされました。

フィジカル・シアターやディバイジング、古典作品の演出からこども向きの作品まで幅広く手がけるスティル氏は、本ワークショップで演出家・俳優に作品への向き合い方を再考させ、その立ち上げ方をともに実践していきます。

Aコース:7月19日(水)~23日(日) Bコース:7月25日(火)~29日(土)
会場:東京芸術劇場 参加料金:20,000円 ※A・Bコースともに同内容
申込締切:7月2日(日) 申込方法・詳細はHPへ
お問合せ:東京芸術劇場 事業調整係 教育普及担当 03-5391-2116

池袋ウエストゲートパーク ソング&ダンス 出演カンパニー募集

東京芸術劇場では地元西池袋を舞台とし、テレビドラマ化もされた石田衣良原作「池袋ウエストゲートパーク」を一般市民が参加して楽しむことのできる歌とダンスのエンターテインメントとすべく、2013年より2度にわたりワークショップを行いました。

今年いよいよ、この試みをステップアップさせ、シアターウエストでのトライアル公演に臨みます。劇中の見せ場となる対立するチームのバトルシーンを「ダンスバトル」として、ストリートダンスのカンパニーが毎回腕を競い合う形でお見せしたいと思います。つきましてはこのシーンに出演するダンスカンパニーを広く募集します。募集詳細はHPをご覧ください。

「池袋ウエストゲートパーク ソング&ダンス」12月~2018年1月 シアターウエスト
原作:石田衣良 脚本・作詞:柴幸男 演出:杉原邦生 振付:北尾亘
応募締切:8月11日(金・祝) 選考:書類審査の上、8月末にオーディションを実施する予定です。
お問合せ:事業第二係 03-5391-2115 ※別途兵庫公演でも実施します

INFORMATION

鑑賞サポート | 目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(対象日限定・無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

7~9月
対象公演

ランチタイム・パイプオルガンコンサート Vol.121
「気づかいルーシー」

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート Vol.19
ランチタイム・パイプオルガンコンサート Vol.122

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296



Patio de METRO
パティオ ドウ メトロ エチカ池袋店

住所:東京都豊島区西池袋3-28-14
池袋駅西口地下通路 2B東京芸術劇場出入り口角
電話:03-6907-3150
営業時間:8:00~22:30

お車で東京芸術劇場をご利用のお客様へ

東京芸術劇場駐車場



有人管理
で安心



雨に
濡れない



車室が広くて
停めやすい

●ご利用者特典●

来館されたお客様で当日入場券を地下2階
駐車場管理室へ提示いただきますと『30分
駐車サービス券』を進呈いたします。

駐車台数	100台
営業時間	7:00~24:00
料金(消費税込)	300円 / 30分毎
当日最大料金	2,400円



JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線、池袋駅西口より徒歩2分、池袋駅地下通路2b出口に直結しています。

東武ビルマネジメント株式会社

お問い合わせ

TEL:03-6914-0019(休館日を除く)
<http://www.tobu-p.com/tokyo-geijutsu/>

